

平成 29 年度第 1 回神奈川県石油コンビナート等防災対策検討会 議事要旨
(平成 29 年 6 月 9 日)

平成 29 年度取組計画について

事務局から、資料 1 ~ 3 について説明。委員から意見をもらい、資料 1 ~ 3 の内容に基づき、今年度の取組を進めていくこととした。

【委員意見等詳細】

< 説明 >

事務局から、資料 1 「平成 29 年度取組計画(案)」、資料 2 「特定事業所の予防対策の促進について」を説明。

< 各委員からの意見等 >

委員

- ・ 前回の調査から、他の事業所がどの程度取組を実施しているのか示した上で聴取してほしい。
- ・ 平成 31 年度までに計画を作るとなると、良い取組事例の収集・紹介を今回できれば、望ましい。

委員

- ・ 取組状況調査のほかに、フレアスタックの関係は、別途調査をするのか。
フレアスタック関係は、神奈川県高圧ガス保安協会に調査委託を予定している。

委員

- ・ 昨年度は幅広く調査され、負担が大きかったので、今年はポイントを絞って調査してもらいたい。
- ・ 取組計画の策定は、どのレベルの計画について問われているのか示してもらえると回答しやすい。

委員代理

- ・ 荷役中に発災した場合の緊急離棧について、マニュアルの整備が事故防止には重要。

委員

- ・ 優先度の高い設備は、分科会で議論して決めるのか、事業所側で選定するのか。

分科会での意見を聞きながら、設備を絞り、優先度の高い設備として、

計画策定を促進していきたい。それ以外の設備及び対策については、事業所ごとに付けた優先順位に基づき、取組予定や計画があるものは、その内容を調査しようと考えている。

- ・ 防災アセスメントのマトリックスで、右上のほうに来るリスクの高い設備について、なぜリスクが高くなるのか検証してみてもどうか。
- ・ フレアスタック等について、委託調査をすることだが、どのような課題があるのか。

昨年度の調査では、地震時の健全性を聴取しており、フレアスタックでは、4割の事業所が検証未了、除害設備では、6割の事業所が検証未了との回答であった。これらの設備は、緊急停止するためには重要であるが、法令に耐震基準が定められていないため、事業所での取組状況や事例を調査、紹介することで、対策の促進を図りたいと考えている。

- ・ 国への要望の「スロッシングの早期検知」とは、具体的にどのようなことか。ドローンの活用をイメージしている。

県としては、すでに事業所に地震計を設置してスロッシングの危険度の大きな評価ができるようにしている。ただ、最終的には、浮き屋根の上に危険物があふれていないかを確認する必要がある。余震も考慮すると、タンクに登って目視することは難しい。高所にカメラを設置している事業所もあるが、全てのタンクは確認できない。

委員

- ・ 調査では、取組や対策の達成状況だけではなく、達成できていない理由を聞き取り、共通で障害になっているようなことがあれば、国への要望や予算措置などにつなげていけば良いのではないか。
- ・ 優先度の考え方について、防災アセスメントとの対応を確認しておくべき。ただ、防災アセスメントは時間軸が含まれていないので、「優先度の考え方」の、 のような内容は、なかなか入ってこない。
- ・ 阪神淡路大震災の際に、LPG タンクで漏えいがあり、大部分は移送したが、一部はフレアスタックで処理した事例がある。当時はフレアスタックの耐震評価はしていなかっただろうが、使用が可能であったことから、フレアスタックは、それほど地震に弱くはないと考えられる。

委員

- ・ 地震、津波対策だけでなく、老朽化や経年劣化による脆弱性の評価し、対策を取るようにできればより良い。

委員代理

- ・ 取組計画は、どのような項目を含めるべきか具体的に示したほうが良い。

- ・ 緊急遮断弁の設置については、どこまでのタンクを対象とするのか等、事業所の意見も聞きながら決めていければ良い。

委員代理

- ・ 国への要望について、分科会等で情報共有してほしい。

委員代理

- ・ 2年前の全国消防長会の危険物委員会において、ドローンが議題で上った。瀬戸内の消防長から、ドローンを使って上空から確認するシステムを検討している事業所がある旨の話があった。
- ・ 昨年度の調査結果について、事業所への周知を進めてもらいたい。
- ・ 倉庫業や運輸業の事業所には、「優先度の考え方」に該当する設備もなく、回答が難しいのではないかと。
- ・ 消防機関は、大規模地震の際には市街地優先となってしまうため、事業所間の相互応援体制を推進も重要。

委員（座長）

- ・ 業種ごとに設備が違うので、それぞれで答えやすいように調査内容を調整していく。
- ・ 緊急遮断弁や配管の耐震対策は、全てを対象に対策を求めていくのではなく、危険性の高いものを抽出し、対策を進めているかを調査で確認していきたい。

委員

- ・ リスクマトリックスで、なぜ右上(高リスク)のほうになるのか、どうすれば左下(低リスク)に行くのかを考えて、対策を検討してはどうか。対策が奏功すれば、数年後、再度防災アセスメントを実施した際に、リスクの減少という目に見える形での効果の確認ができるのではないかと。

委員

- ・ リスクアセスメントの考え方や手法は、その時の知識等に応じて、変わってくるので比較は難しいと思うが、それぞれの評価の中で、リスクが小さくなるように取組んでいくことは大切。
- ・ 周辺住民への被害を防ぐという点では、住民対応が重要。住民に、発信した情報を正しいと思ってもらえ、非常時は避難等に協力してもらえる信頼関係を築くことが大切。
- ・ 韓国では、広報車や広報スピーカーの信頼性が高く、インターネットの信頼性は逆に低いとの調査結果がある。日本ではテレビやラジオの信頼性が高い。非難行動してもらうためには、どのように広報するのが良いか探っている。

委員

- ・ 消防車が入場していると何かあったのかと問い合わせがあるなど、住民からは見える化が要請される。
- ・ 当事業所では、水幕設備の訓練等も実施しており、事故やトラブルを小さく抑さえ、拡大させないための取組について評価してもらえていると思う。
- ・ 見学会で住民から「想定外の事態には、どう対応するのか」という質問に対して、どう対応するか困っている。

委員

- ・ 昔から住まわれている近隣の方とは、比較的良好な関係持っている。ただ、マンションなど新しく入ってきた住民と自治会とでかかわりが希薄になり、自治会へ伝えたことが、なかなか伝わらないことがある。

委員

- ・ 自治会の加入率は、全国的に問題。自治会に加入していない人は、インターネットやテレビから情報を得ることになり、地域の細かい情報が入ってこないことが多い。
- ・ 千年に一度レベルの災害となると、自助共助が主な対応ということになるが、今後、先を見越して、どのように対応していくかを考えていくことも必要。

委員代理

- ・ コミュニティーの問題は、行政一般にわたる課題。防災に関しては、命に関わることから、色々な人から注目してもらえることから、マンションの新しい住民等をつなぐきっかけとなる。

< 説明 >

事務局から、資料3「平成29年度 神奈川県石油コンビナート等防災本部訓練計画」を説明。

< 各委員からの意見等 >

委員（座長）

- ・ 例えば、大容量泡放射システムの出動要請が2箇所以上から出るような厳しい条件を盛り込み、情報が少ない中で判断をしていく「うまくいかない訓練」を実施したい。
- ・ 基礎スキルをつける訓練以外に、判断を求められる訓練をもっと取り入れたいと考えている。

委員代理

- ・ 東日本大震災の前年に、全国消防協会にて、緊急消防援助隊を一同に集めたブラインド訓練を実施した。東日本大震災では訓練の経験が役に立った。
- ・ 国も見せる訓練はやめようという方向なので、ブラインド形式の訓練は良いと思う。

委員代理

- ・ 今回は、ブラインド形式で失敗を経験することも狙いだということであれば、経験を積んでもらいたい人や現場の動きを検証する立場の人等、参加者の選定も考える必要がある。

委員

- ・ 9月1日の九都県市の合同訓練は、段取りをしっかりと、確認する形式の訓練。1月17日の防災とボランティアの日の訓練は、多くの自治体はブラインド型で訓練を実施しており、うまくいかない訓練となることが多い。
- ・ 十勝沖地震の際は、川崎市から苫小牧まで応援に行っている事例もあることから、そのような厳しい状況が実際にもありえるので、訓練を進めてほしい。

委員代理

- ・ ブラインド型訓練の後に、反省をする機会をしっかりと持ったほうが良い。
- ・ 九都県市の訓練は、来年度川崎市が担当で、東扇島を舞台として、コンビナートがひとつテーマとなるので、皆様と協力してやっていきたい。

委員

- ・ 訓練を見学することで、行政側がどういった情報のやり取りをしているか知ることができ、事業所側では、どういった情報を伝える必要があるのかがわかるため、役立つと思う。

委員代理

- ・ 迅速で的確な判断をしていくためには、情報収集や情報共有が重要。
- ・ ブラインド訓練は、実施後のブリーフィングが重要なので、実施してもらいたい。

委員

- ・ 当事業所は、防災訓練を年2回実施しており、異動者の多い春の訓練では流れを確認する訓練を実施している。秋の訓練では、訓練内容の一部を隠したいわゆる、ブラインド型訓練を実施している。
- ・ 訓練後のブリーフィングでは意見は色々出るが、誰がいつまでに何をするかというように整理しないと、意見だけが対応されずに残り続けることになる。

委員

- ・ 緊急消防援助隊やドラゴンハイパーコマンドユニットの出動要請はしないのか。消防庁をはじめ、国とのやり取りが入るのではないかと。これからシナリオをつめていく中で調整していく。消防庁からの問合せ等については、コントローラーで対応する。
また、消防庁には、訓練の評価者を依頼する予定。

<その他>

国への要望に、フレアスタック等への支援を入れるかどうか検討するに当たって、事業所での取組状況等について、意見を聴取。

委員

- ・ 当事業所では、地震で倒壊しないかいざという時に処理能力が満足するかについて、検証しており、対策はできていると認識している。また、フレアスタックの定期的な検査や周辺配管の健全性等の確認も行っている。

委員

- ・ 特防協の役員会等の場で、意見を集めたい。

委員

- ・ フレアスタック等への支援について、早めに要望として入れてもらえるのはよいと思う。
- ・ フレアスタックは、地震の際、構造上本体は問題ないが、液状化で傾いたりするおそれはあるのではないかと。必要能力をどのように設計しているのかは各社それぞれの考え方がある。

以 上